

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	名山 泰子 矢野 雄也
学力向上推進員	主幹教諭	平岩 真知
委員	教諭(総合支援課長) 教諭(学校生活課長) 教諭(教育総務課長)	山口 美和 宮本 小百合 長尾 裕子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

高 等 部 生 徒 の 状 況			
よさ	年間を通して地域貢献活動に継続して取り組むことで、自分の役割を果たす経験を深めることができ、主体的に活動に参加する姿勢が育ってきている。昨年度の取り組みでは、地域貢献活動の目的(地域に役立つ力、役割を果たす力、協力する力)を意識して取り組めたと自覚した生徒は94%であった。	課題 中学校時に不登校傾向、もしくは不登校であった生徒が3割程度在籍しており、入学時は成功経験の不足から、学習活動に自信を持ちにくい。また、発達障がい併せ有する生徒も多く在籍しているため、個々の実態に応じて、自らの希望や夢について自己理解・自己受容ができるように働きかけが必要である。	
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
	①卒業後の生活を見据え、生徒一人一人のニーズや課題に応じた学習を積み重ねることで、生活や就労に必要な力を身につけることができる。 ②地域貢献活動(3S活動)の目的を意識して取り組むことで、地域を元気にする力(役割を果たす力、協力する力等)を身につけることができる。	①個別の指導計画において、生活や就労に必要な力を身につけるための目標の達成率が80%以上になる。 ②地域を元気にするために身につけたい目標のリストから生徒自身が選択し、目標を設定できる。また、自己評価の達成率が80%以上になる。	評価
	具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
	①キャリアパスポートに整理した将来像、就業体験実習から見てきた課題、卒業後の生活を見据え、目標や指導内容について話し合いを実施する。 ②地域を元気にするための目標を複数リストアップし、生徒が選択する機会を設定する。また、実施後に自己評価・他者評価する機会を設定する。 * 中間期の見直し	①生徒一人一人の生活や就労に必要な力についての実態把握および、課題の共通理解、目標や指導内容についての話し合いを年間4回以上実施する。 ②3S(smile, skill, space)に関連した目標(地域を元気にするための目標)を複数考案し、提示する。また、生徒が目標リストから自己選択し、目標設定、評価を行う機会を設定する。	
達成状況を踏まえた改善事項			